

2025年度事業報告

2025 年は、大阪・関西万博の開催やMLBでの日本人選手の活躍、戦後 80 年や阪神・淡路大震災から 30 年といった節目の年でもあり、未来への期待と記憶の継承を考えさせられる一年でした。一方で、能登半島地震の復興の遅れや依然続く物価上昇、熊による被害拡大、さらには近年の猛暑が影響した米の作柄不良に伴う価格高騰など、生活に不安をもたらす事象も相次ぐなど、社会全体が大きな転換点に立っていることを実感させる一年であったとも言えます。

本会では、2025 年度の事業執行に際し、前年度予算に対し収支ともに 7,500 万円(△4.4%)減額の 16 億 2500 万円の予算を組み、各種事業を推進いたしました。

本会の主たる事業でもある展覧会・競技会事業については、2026 年 3 月 21 日(土)・22 日(日)に東京ビッグサイトにおいて、三笠宮寛仁親王妃信子妃殿下をお招きして JKC サクラ・アニュアル・ショーを開催することが出来、2025 年 12 月 21 日(日)には同じく東京ビッグサイトにおいて、特別本部展として本部主催の FCI 展を開催いたしました。この他に全国各地で 293 回余の各種展覧会、訓練競技会・アジリティー競技会・フライボール競技会が開催され、全ブロックでトリミング競技会・ハンドリング競技会が開催されました。

展覧会・競技会事業と並ぶ本会事業の根幹である犬籍登録事業においては、2025 年度犬籍登録頭数は前年度に対し若干の増加となり、136 犬種 304,066 頭と 30 万頭以上の登録がありました。

年度末有効クラブ会員数については、今年度も前年度に比べやや減少が見られ 2025 年度末で 78,992 名となっております。

組織運営においては、円滑な組織運営とより迅速な連絡・報告が行えるよう、電子メールを活用し各組織に対する指導を強化してまいりました。広報部門においては、ホームページのリニューアルにより、会員だけでなく一般愛犬家への広報活動にも取り組んでまいりました。

国際的連携の部門においては、諸外国との緊密な関係を堅実に維持してまいりました。学術部門においては、犬種標準作成作業として、犬種名称変更に伴うアブルツォ・アンド・マレンマ・シェパード・ドッグ(旧名称:マレンマ・シーブドッグ)の改正、新登録犬種であるカンガル・シェパード・ドッグのスタンダードを作成いたしました。

本会公認資格である JKC 愛犬飼育管理士資格につきましては、前年度に引き続き資格取得のための講習会・試験に数多くのお申し込みをいただき、全国 8 会場で 10 回実施した講習会・試験に 1,440 名の方が受講されました。その結果、トリマー養成機関を含め、1,833 名の資格登録者がありました。

なお、各種登録申請受付ならびに展覧会・競技会出陳受付のデジタル化につきましては、事務局内プロジェクト委員会において慎重かつ継続的な検討を重ね、実施に向けた準備作業を着実に進めております。

本会が犬を通じての社会貢献事業として推進する災害救助犬育成につきまして、現在 190 頭の出動可能な認定犬を確保しております。その日頃の鍛錬の結果として、2025 年 6 月にトルコで開催された「2025 FCI 災害救助犬チームワールドチャンピオンシップ」において、瓦礫搜索部門で見事優勝という栄誉を獲得いたしました。

前述のような各種事業を推進した結果、2025 年度の正味財産増減計算書において、経常収益と経常外収益の合計額は、前年度 16 億 7,435 万円に対して、4.8%(8,050 万円)減の 15 億 9,385 万円となり、経常費用と経常外費用の合計額は、前年度 17 億 95 万円に対して、2.2%(3,793 万円)減の 16 億 6,302 万円となりました。これにより当期一般正味財産増減額(当期剰余金)は△6,923 万円(前年度対比 3,867 万円減)となっております。

以上が事業、並びに決算報告となります。依然として本会を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、財政状況を一層精緻に見極め、変動する社会情勢を的確に捉えながら、揺るぎない運営体制を堅持していくことが肝要であると考えております。

次に、2025 年度に実施した事業の概要を事業ごとに報告いたします。

1. 組織に関する事項

2025年度は、組織運営の活性化及び円滑化を図るため、各組織に対し、諸会議の開催及びその議事録の提出、また、展覧会・競技会の開催について指導しました。

組織構成の現況は、次の通りとなっています。

名 称	組 織 数
ブロック協議会	14 (14)
ブロック審査員協議会	13 (13)
ブロック訓練士協議会	14 (14)
クラブ連合会	65 (65)
クラブ地区連合会	0 (1)
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会	1 (1)
ブロックスチュワード委員会	14 (14)
ブロックトリマー委員会	14 (14)
ブロックハンドラー委員会	14 (14)
犬種部会	4 (4)
クラブ	836 (839)

注：() 内は前年度末の数値。

中央委員会の名称
中央賞罰委員会
中央犬籍・繁殖委員会
遺伝性疾患専門小委員会
中央犬種標準委員会
中央展覧会委員会
中央審査員選考委員会
中央ハンドリング委員会 ジュニアハンドラー小委員会
中央トリミング委員会
中央トリマー養成機関委員会
中央訓練委員会 ユーティリティードッグ小委員会 フライボール小委員会 オビディエンス小委員会 ドッグダンス小委員会
中央アジリティー委員会
中央災害救助犬委員会

(1) クラブ活動・機能の強化

2025年度は、10クラブが新しく設立され、クラブ会員数の減少等に起因するクラブの統廃合(合併4、解散9)の結果、年度末のクラブ数は前年度末に比べ3クラブ減少し836クラブとなりました。

なお、年度末の会員定数以上の正会員クラブ数は784クラブと前年度比で18クラブ増加となっており、会員定数未満のクラブに対し、事務局、ブロック担当理事及び管轄組織より指導を行いその正常化に努めました。

2008年度に創設した準クラブ制度については、これまで35クラブが設立されており、全てが正クラブへ移行しております。

(2) クラブへの新入会並びに名義変更の促進

新入会・名義変更促進のため、リーフレットを作成し、クラブ、登録畜犬業者等へ配布しました。

(3) クラブ連合会、ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会活動の指導強化

連合会活動の活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び義務付展覧会・義務付競技会の開催を指導しました。

なお、富山県クラブ地区連合会については、第303回理事会において新潟県クラブ連合会との合併が議決され、「新潟県・富山県クラブ連合会」となりました。

また、本会からの通達について、郵便以外に電子メールによる通達を行うため、クラブ以外の組織に対して、メールアドレスの登録を依頼しました。

(4) 各種ブロック協議会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

また、FCIインターナショナルドッグショー、ブロック訓練競技会の開催を指導しました。

(5) 犬種部会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び部会会報の発行、部会展覧会の開催を指導しました。

なお、2025年度は、4部会(①ダックスフンド部会 ②プードル部会 ③シェットランド・シープドッグ部会 ④チワワ部会)の活動となりました。

(6) 各種ブロック委員会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、常任委員会の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

(7) 会費自動引落の推進及びシステムの修正

2011年4月より開始した会費の支払いが自動引落しにより可能となるサービスについては、2026年3月末現在、33,031名のクラブ会員にご利用いただいております。

また、会費自動引落システムの構築及び修正を行うとともに、サービス推進のため、会報・ホームページへの公示、引落しをご利用いただいていないクラブ会員に対し、会報への案内書の同封、新規クラブ入会者に対し、クラブ会員証を送付の際に案内書の同封、トリマー養成機関在校生に対し、案内書の送付、引落申込会員に対し、引落月のご案内の送付、さらに、トリマー協力機関に対し、自動引落案内通知の送付を実施しました。

クラブ分類表

<クラブ数・正会員クラブ> (総数に対する構成比率)

2026年3月31日現在

	クラブ数		正会員クラブ	
	2025年	2026年	2025年	2026年
全犬種クラブ	577 (68.8%)	577 (69.0%)	571	575
犬種群クラブ	28 (3.3%)	26 (3.1%)	28	26
単犬種クラブ	152 (18.1%)	148 (17.7%)	151	146
トレーナーズクラブ	45 (5.4%)	44 (5.3%)	45	44
アジリティークラブ	34 (4.1%)	36 (4.3%)	34	36
フィールド・トライアル クラブ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0	0
ドッグダンスクラブ	3 (0.4%)	5 (0.6%)	3	5
総 数	839 (100%)	836 (100%)	832 (99.2%)	832 (99.5%)

<凍結クラブ数>

	会員数定数未満 (50名未満)		会員数定数未満 (40名未満)		連合会年会費未納	
	2025年	2026年	2025年	2026年	2025年	2026年
全犬種クラブ	6	2			0	0
犬種群クラブ			0	0	0	0
単犬種クラブ			1	2	0	0
トレーナーズクラブ			0	0	0	0
アジリティークラブ			0	0	0	0
フィールド・ トライアルクラブ			0	0	0	0
ドッグダンスクラブ			0	0	0	0
総 数	6	2	1	2	0	0

(8) クラブ会員数

年度末クラブ会員数は対前年度比99.8%の78,992名であり、前年度末に比べ124名の減少となりました。また、1クラブ当たり平均在籍クラブ会員数は92名(前年度92名)となっています。

クラブ会員数の推移

年 度	クラブ会員数	クラブ会員数のうち 翌年同月に残る数	比率
2021年度末	79,308名	62,305名	78.6%
2022年度末	80,757名	64,040名	79.3%
2023年度末	80,199名	63,945名	79.7%
2024年度末	79,116名	63,862名	80.7%
2025年度末	78,992名	65,123名	82.4%

注：名誉会員は除く

会費自動引落サービス並びに会費前納制度利用により、翌年同月に残るクラブ会員数は65,123名(前年度63,862名)で、前年度末に比べ1,261名が増加し、クラブ会員総数に対する比率は82.4%(前年度80.7%)となりました。

(※自動引落しサービスは2011年1月より受付開始)

継続会費の自動引落サービス利用者数

年 度	利用者数
2021年度末	30,455名
2022年度末	31,232名
2023年度末	31,873名
2024年度末	32,548名
2025年度末	33,031名

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2025年 3 月末		2026年 3 月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
北 海 道 東	430	6	419	6	-11	0
北 海 道 西	1,638	14	1,661	14	23	0
北 海 道 南	965	12	942	12	-23	0
小 計	3,033	32	3,022	32	-11	0
青 森 県	360	5	367	5	7	0
岩 手 県	396	6	398	6	2	0
宮 城 県	1,439	15	1,392	15	-47	0
秋 田 県	364	6	321	6	-43	0
山 形 県	365	6	359	6	-6	0
福 島 県	667	8	635	8	-32	0
小 計	3,591	46	3,472	46	-119	0
栃 木 県	1,633	16	1,580	16	-53	0
群 馬 県	2,175	30	2,222	29	47	-1
茨 城 県	2,021	23	2,078	24	57	1
小 計	5,829	69	5,880	69	51	0
千 葉 東	2,191	26	2,169	26	-22	0
千 葉 西	1,086	13	1,053	13	-33	0
千 葉 北	1,748	15	1,819	15	71	0
小 計	5,025	54	5,041	54	16	0
埼 玉 東	1,073	13	1,051	13	-22	0
埼 玉 西	1,621	15	1,641	14	20	-1
埼 玉 北	1,303	15	1,298	15	-5	0
小 計	3,997	43	3,990	42	-7	-1
東 京 東	2,452	19	2,613	24	161	5
東 京 西	1,207	12	1,125	11	-82	-1
東 京 南	2,415	24	2,560	28	145	4
東 京 北	1,649	16	1,776	16	127	0
東 京 都 下	1,763	24	1,471	18	-292	-6
小 計	9,486	95	9,545	97	59	2

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2025年 3 月 末		2026年 3 月 末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
横 浜	1,185	13	1,265	13	80	0
川 崎	395	7	354	6	-41	-1
神 奈 川 北	1,285	12	1,245	12	-40	0
神 奈 川 湘 南	746	13	755	13	9	0
神 奈 川 南	2,126	13	2,099	12	-27	-1
小 計	5,737	58	5,718	56	-19	-2
山 梨 県	507	6	496	6	-11	0
長 野 県	700	9	709	9	9	0
新潟県・富山県	803	11	778	11	-25	0
石 川 県	860	6	828	6	-32	0
小 計	2,870	32	2,811	32	-59	0
静 岡 東	1,084	17	1,078	17	-6	0
静 岡 西	1,096	13	1,105	13	9	0
愛 知 県	2,608	26	2,536	26	-72	0
岐 阜 県	1,084	14	1,065	14	-19	0
三 重 県	774	13	757	13	-17	0
小 計	6,646	83	6,541	83	-105	0
福 井 県	277	6	259	6	-18	0
和 歌 山 県	299	4	276	4	-23	0
奈 良 県	465	6	432	5	-33	-1
滋 賀 県	596	9	575	9	-21	0
京 都 府	1,458	18	1,466	18	8	0
兵 庫 県	2,939	32	3,013	32	74	0
小 計	6,034	75	6,021	74	-13	-1
大 阪 東	1,319	17	1,333	17	14	0
大 阪 西	4,204	15	4,338	15	134	0
大 阪 南	1,058	14	1,224	17	166	3
大 阪 北	861	13	750	11	-111	-2
小 計	7,442	59	7,645	60	203	1

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2025年 3 月 末	2026年 3 月 末	増 減
---------	-------------	-------------	-----

	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
岡 山 県	2,398	20	2,452	20	54	0
広 島 県	1,623	13	1,647	13	24	0
山 口 県	699	11	692	11	-7	0
島 根 県	267	5	277	5	10	0
鳥 取 県	389	5	375	5	-14	0
小 計	5,376	54	5,443	54	67	0
香 川 県	1,271	13	1,260	13	-11	0
愛 媛 県	842	10	829	10	-13	0
徳 島 県	774	13	713	11	-61	-2
高 知 県	328	6	330	6	2	0
小 計	3,215	42	3,132	40	-83	-2
福 岡 県	3,413	27	3,543	28	130	1
北 九 州	1,018	17	1,001	16	-17	-1
佐 賀 県	439	6	425	6	-14	0
長 崎 県	440	7	434	7	-6	0
熊 本 県	1,132	11	1,110	11	-22	0
大 分 県	584	8	572	8	-12	0
宮 崎 県	757	11	745	11	-12	0
鹿 児 島 県	322	5	309	5	-13	0
沖 縄 県	507	5	477	5	-30	0
小 計	8,612	97	8,616	97	4	0
トリマー養成機関	2,223		2,115		-108	
小 計	2,223		2,115		-108	
総 合 計	79,116	839	78,992	836	-124	-3

全国ブロック協議会別クラブ会員数・クラブ平均会員数推移表

2025年3月末						2026年3月末				
ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)	順位	ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)
東 京	5	95	9,486	100	1	東 京	5	97	9,545	98
九 州	9	97	8,612	89	2	九 州	9	97	8,616	89
大 阪	4	59	7,442	126	3	大 阪	4	60	7,645	127
中 部	5	83	6,646	80	4	中 部	5	83	6,541	79
近 畿	6	75	6,034	80	5	近 畿	6	74	6,021	81
北関東	3	69	5,829	84	6	北関東	3	69	5,880	85
神奈川	5	58	5,737	99	7	神奈川	5	56	5,718	102
中 国	5	54	5,376	100	8	中 国	5	54	5,443	101
千 葉	3	54	5,025	93	9	千 葉	3	54	5,041	93
埼 玉	3	43	3,997	93	10	埼 玉	3	42	3,990	95
東 北	6	46	3,591	78	11	東 北	6	46	3,472	75
四 国	4	42	3,215	77	12	四 国	4	40	3,132	78
北海道	3	32	3,033	95	13	北海道	3	32	3,022	94
北陸甲信越	5	32	2,870	90	14	北陸甲信越	4	32	2,811	88
合 計	66	839	76,893	92		合 計	65	836	76,877	92

本部関係	—	—	2,223	—	—	本部関係	—	—	2,115	—
------	---	---	-------	---	---	------	---	---	-------	---

2. 犬籍登録に関する事項

2025年度の犬籍登録頭数は、前年度比100.5%の304,066頭(136犬種)で、前年度末に比べ1,490頭の増加となりました。

犬籍登録頭数推移

年 度	犬籍登録頭数
2021年度	319,479頭
2022年度	308,406頭
2023年度	309,641頭
2024年度	302,576頭
2025年度	304,066頭

犬種別の登録順位は、1位から7位までが前年度と同順位であり、17年連続の1位はプードルで登録数は69,190頭(5,257頭減)となっております。以下、2位はチワワで46,016頭(544頭減)、3位はダックスフンドで30,850頭(1,406頭増)、4位はポメラニアンで23,197頭(1,511頭増)、5位はミニチュア・シュナウザーで15,248頭(107頭増)となっております。

(1) 犬籍登録管理の徹底と血統証明書の発行

① マイクロチップ記載登録を推進

血統証明書へのマイクロチップ記載について、一胎子登録とマイクロチップ記載との同時申請(2022年6月より実施)を可能とすることにより、マイクロチップ記載を推進しました。

② USBフラッシュメモリ及び製本方式によるスタッドブックの刊行

2024年の全登録犬を収録したUSBフラッシュメモリ版と、犬種を指定して購入できる製本方式のスタッドブックを刊行しました。

③ DNA登録を活用した正しい血統登録の推進

DNA登録は、チャンピオン登録犬、外産登録犬、交配したすべての種牡、血統証明書再発行(本会の原簿上に交配記録がある種牡)、親犬訂正する犬、生後2年を超える一胎子についての父母犬及び子犬全頭、国外凍結・低温精液による人工授精の母犬及び子犬全頭、国内凍結・低温精液による人工授精の父母犬及び子犬全頭、以上の登録犬に対して義務付けております。その他、任意登録を実施しました。

この登録データを活用して疑義のある登録申請の調査、及び個体識別することによる不正登録の抑止を推進しました。

2025年度のDNA登録は8,739頭であり、本会のDNA登録のデータベースは総数278,641頭となりました。

④ 凍結・低温精液による人工授精と、持込腹(国外で交配した母犬を輸入し国内で出産する場合)の一胎子登録制度を推進しました。

(2) 優良犬作出に対する繁殖奨励の実施

① 優良犬繁殖奨励のため、2002年から2025年までの24年間のデータを基に、第20回J K Cブリーディング・アワードを実施し、アウトスタンディング・ブリーダー(優良犬作出ブリーダー)殿堂入り2名、アウトスタンディング・ブリーダー31名、アウトスタンディング・サイヤー(優良犬作出種牡)2頭、アウトスタンディング・ダム(優良犬作出台牝)5頭を表彰しました。

② 股関節形成不全症(HD)、および肘関節異形成症(ED)を減少させるため、所有者の希望に基づき特定非営利活動法人日本動物遺伝病ネットワーク(J AHD)評価結果の血統証明書記載を推進しました。

犬種別犬籍登録頭数2024年度対2025年度（4月～3月）

順位 2024年	位 2025年	犬種	2024年	2025年	増減数	対比率(%)
1	1	ブードル(スタンダード 2,499・ミディアム 327・ミニチュア 245・トイ 66,119)	74,447	69,190	- 5,257	92.9
2	2	チワワ	46,560	46,016	- 544	98.8
3	3	ダックスフンド(スタンダード 128・ミニチュア 23,317・カニンヘン 7,405)	29,444	30,850	+ 1,406	104.8
4	4	ポメラニアン	21,686	23,197	+ 1,511	107.0
5	5	ミニチュア・シュナウザー	15,141	15,248	+ 107	100.7
6	6	マルチーズ	10,182	10,190	+ 8	100.1
7	7	フレンチ・ブルドッグ	9,594	9,494	- 100	99.0
10	8	ビション・フリーゼ	7,269	8,401	+ 1,132	115.6
8	9	ヨークシャー・テリア	8,069	8,154	+ 85	101.1
9	10	シー・ズー	7,774	8,003	+ 229	102.9
11	11	ゴールデン・レトリバー	7,103	7,436	+ 333	104.7
15	12	ボーダー・コリー	3,964	4,808	+ 844	121.3
12	13	パグ	5,006	4,777	- 229	95.4
13	14	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	4,358	4,610	+ 252	105.8
16	15	ベキニーズ	3,799	4,479	+ 680	117.9
20	16	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	3,213	3,562	+ 349	110.9
18	17	パピヨン	3,499	3,470	- 29	99.2
14	18	柴	4,336	3,467	- 869	80.0
17	19	ラブラドル・レトリバー	3,571	3,303	- 268	92.5
21	20	イタリアン・グレーハウンド	3,042	3,213	+ 171	105.6
19	21	ジャック・ラッセル・テリア	3,278	3,206	- 72	97.8
22	22	ミニチュア・ピンシャー	2,944	3,026	+ 82	102.8
23	23	シベリアン・ハスキー	2,521	2,845	+ 324	112.9
24	24	シェットランド・シープドッグ	2,417	2,729	+ 312	112.9
26	25	アメリカン・コッカー・スパニエル	2,224	2,311	+ 87	103.9
25	26	ボストン・テリア	2,258	2,290	+ 32	101.4
27	27	ビーグル	1,895	2,119	+ 224	111.8
28	28	日本スピッツ	1,392	1,576	+ 184	113.2
29	29	バーニーズ・マウンテン・ドッグ	1,261	1,217	- 44	96.5
30	30	ブルドッグ	1,054	986	- 68	93.5
31	31	サモエド	553	947	+ 394	171.2
38	32	狆	299	429	+ 130	143.5
33	33	ドーベルマン	395	403	+ 8	102.0
36	34	イングリッシュ・コッカー・スパニエル	334	398	+ 64	119.2
37	35	グレート・ピレニーズ	326	389	+ 63	119.3
32	36	ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア	450	387	- 63	86.0
35	37	ジャーマン・シェパード・ドッグ	351	365	+ 14	104.0
33	38	ウィペット	395	352	- 43	89.1
42	39	秋田	233	273	+ 40	117.2
41	40	フラットコーテッド・レトリバー	265	271	+ 6	102.3
43	41	オールド・イングリッシュ・シープドッグ	228	247	+ 19	108.3
39	42	ボルゾイ	278	239	- 39	86.0
52	43	アラスカン・マラミュート	152	233	+ 81	153.3
40	44	ワイマラナー	270	230	- 40	85.2
44	45	ニューファンドランド	204	220	+ 16	107.8
48	46	ダルメシアン	181	219	+ 38	121.0
49	47	ロットワイラー	178	205	+ 27	115.2
51	48	ノーフォーク・テリア	172	190	+ 18	110.5
45	49	チャウ・チャウ	198	176	- 22	88.9
46	50	ホワイト・スイス・シェパード・ドッグ	186	175	- 11	94.1
47	51	オーストラリアン・シェパード	182	174	- 8	95.6
64	52	ブリュッセル・グリフォン	103	171	+ 68	166.0
66	53	チャイニーズ・クレステッド・ドッグ	92	162	+ 70	176.1
53	54	スコティッシュ・テリア	148	158	+ 10	106.8
55	55	ミニチュア・ブル・テリア	145	148	+ 3	102.1
56	56	ボロニーズ	132	145	+ 13	109.8
57	57	グレート・デーン	129	136	+ 7	105.4
50	58	コーイケルホンディエ	174	127	- 47	73.0

順位	位	犬種	2024年	2025年	増減数	対比率(%)
60	58	トイ・マンチェスター・テリア	125	127	+ 2	101. 6
53	60	セント・バーナード	148	126	- 22	85. 1
62	61	ラフ・コリー	120	113	- 7	94. 2
63	62	ワイアー・フォックス・テリア	119	96	- 23	80. 7
61	63	ボクサー	121	83	- 38	68. 6
76	64	ウェルシュ・テリア	53	81	+ 28	152. 8
58	65	バセット・ハウンド	128	80	- 48	62. 5
73	65	スキッパーキ	59	80	+ 21	135. 6
70	67	アイリッシュ・セター	72	72	± 0	100. 0
86	68	ウェルシュ・コーギー・カーディガン	32	70	+ 38	218. 8
67	69	ケアーン・テリア	82	69	- 13	84. 1
68	70	ハバニーズ	81	68	- 13	84. 0
74	71	ロマーニャ・ウォーター・ドッグ	58	66	+ 8	113. 8
77	71	ボーチュギーズ・ウォーター・ドッグ	46	66	+ 20	143. 5
72	73	サルーキ	60	57	- 3	95. 0
71	74	日本テリア	67	56	- 11	83. 6
74	74	プチ・ブラバンソン	58	56	- 2	96. 6
65	76	アフガン・ハウンド	96	52	- 44	54. 2
78	77	甲斐	45	48	+ 3	106. 7
95	78	レオンベルガー	15	47	+ 32	313. 3
59	79	ミニチュア・アメリカン・シェパード	126	46	- 80	36. 5
87	79	四国	31	46	+ 15	148. 4
78	81	エアデール・テリア	45	42	- 3	93. 3
82	82	ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア	37	40	+ 3	108. 1
80	83	ノーリッチ・テリア	43	39	- 4	90. 7
94	84	チェコスロバキアン・ウルフドッグ	17	36	+ 19	211. 8
95	84	ジャーマン・ピンシャー	15	36	+ 21	240. 0
69	86	バセンジー	79	35	- 44	44. 3
83	87	ベルジアン・グリフォン	36	32	- 4	88. 9
88	88	イングリッシュ・スプリングー・スパニエル	29	30	+ 1	103. 4
84	89	レークランド・テリア	34	29	- 5	85. 3
100	90	チベタン・スパニエル	13	28	+ 15	215. 4
85	91	ジャイアント・シュナウザー	33	24	- 9	72. 7
90	92	北海道	26	23	- 3	88. 5
119	93	イングリッシュ・セター	4	22	+ 18	550. 0
81	94	スタッフォードシャー・ブル・テリア	42	19	- 23	45. 2
91	94	シャー・ペイ	23	19	- 4	82. 6
89	96	ブリタニー・スパニエル	28	18	- 10	64. 3
100	96	ノヴァ・スコシア・ダック・トーリング・レトリバー	13	18	+ 5	138. 5
100	98	シーリハム・テリア	13	16	+ 3	123. 1
97	99	オーストラリアン・キャトルドッグ	14	14	± 0	100. 0
-	100	セントラル・アジア・シェパード・ドッグ	0	13	+ 13	-
114	101	アイリッシュ・ソフトコーテッド・ウィートン・テリア	6	12	+ 6	200. 0
119	101	ボーダー・テリア	4	12	+ 8	300. 0
-	101	ブレサ・カナリオ	0	12	+ 12	-
124	104	ポリッシュ・ローランド・シープドッグ	3	11	+ 8	366. 7
-	105	スモール・ミュンスターレンダー	0	10	+ 10	-
124	106	イタリアン・コルソ・ドッグ	3	8	+ 5	266. 7
92	107	キースホンド	18	7	- 11	38. 9
92	107	ベドリントン・テリア	18	7	- 11	38. 9
109	107	アイリッシュ・ウルフハウンド	7	7	± 0	100. 0
130	107	コットン・ド・デュレアル	1	7	+ 6	700. 0
-	107	アイリッシュ・テリア	0	7	+ 7	-
-	107	ショートヘアード・ハンガリアン・ビズラ	0	7	+ 7	-

順位		犬種	2024年	2025年	増減数	対比率(%)	
2024年	2025年						
-	107	タイワン・ドッグ	0	7	+	7	-
-	107	チルネコ・デルエトナ	0	7	+	7	-
-	107	ブリアード	0	7	+	7	-
-	116	スムース・コリー	0	6	+	6	-
100	117	プチ・バセット・グリフォン・バンデーン	13	5	-	8	38.5
109	117	ジャーマン・ハンティング・テリア	7	5	-	2	71.4
128	117	ムーディー	2	5	+	3	250.0
100	120	ベルジアン・シェパード・ドッグ・タービュレン	13	4	-	9	30.8
107	120	アーフェンピンシャー	10	4	-	6	40.0
108	120	ブラシュスキー・クリサジーク	8	4	-	4	50.0
119	120	ケリー・ブルー・テリア	4	4	±	0	100.0
128	120	ジャーマン・ショートヘアード・ポインター	2	4	+	2	200.0
130	125	アザワク	1	3	+	2	300.0
109	126	チベタン・テリア	7	2	-	5	28.6
-	126	クランバー・スパニエル	0	2	+	2	-
-	126	グレート・スイス・マウンテン・ドッグ	0	2	+	2	-
130	129	フィニッシュ・ラポニアン・ドッグ	1	1	±	0	100.0
-	129	カンガル・シェパード・ドッグ	0	1	+	1	-
-	129	サセックス・スパニエル	0	1	+	1	-
-	129	スタンダード・シュナウザー	0	1	+	1	-
-	129	スルーギ	0	1	+	1	-
-	129	ピレニアン・マスティフ	0	1	+	1	-
-	129	ファラオ・ハウンド	0	1	+	1	-
-	129	ローデシアン・リッジバック	0	1	+	1	-
97	-	ナポリタン・マスティフ	14	0	-	14	0.0
97	-	ベルジアン・シェパード・ドッグ・グローネンダール	14	0	-	14	0.0
105	-	ピアデッド・コリー	12	0	-	12	0.0
106	-	ラサ・アプソ	11	0	-	11	0.0
109	-	ディアハウンド	7	0	-	7	0.0
109	-	ブービエ・デ・フランダース	7	0	-	7	0.0
114	-	イングリッシュ・ポインター	6	0	-	6	0.0
114	-	ボルドー・マスティフ	6	0	-	6	0.0
117	-	オーストラリアン・ケルピー	5	0	-	5	0.0
117	-	ダンディ・ディモント・テリア	5	0	-	5	0.0
119	-	マスティフ	4	0	-	4	0.0
119	-	ランカシャー・ヒーラー	4	0	-	4	0.0
124	-	パーソン・ラッセル・テリア	3	0	-	3	0.0
124	-	紀州	3	0	-	3	0.0
130	-	グレーハウンド	1	0	-	1	0.0
130	-	サールローズ・ウルフドッグ	1	0	-	1	0.0
130	-	スカイ・テリア	1	0	-	1	0.0
130	-	ダッチ・シャペンドース	1	0	-	1	0.0
130	-	ピレニアン・シープドッグ	1	0	-	1	0.0
130	-	フィールド・スパニエル	1	0	-	1	0.0
130	-	ブルマスティフ	1	0	-	1	0.0

年 度		2024年度 (構成比)	2025年度 (構成比)	増減数	対比率
登 録 頭 数	大型犬	26,382 (8.7%)	27,876 (9.2%)	1,494	105.7%
	中型犬	2,382 (0.8%)	2,188 (0.7%)	-194	91.9%
	小型犬	273,812 (90.5%)	274,002 (90.1%)	190	100.1%
	合計	302,576	304,066	1,490	100.5%
犬 種 数		139	136	6	-3

3. 展覧会に関する事項

(1) 各種展覧会の開催

2025 年度の展覧会開催数は、185 開催でした。

また、会場となる東京ビッグサイトの日程調整の関係から借用日が 2 日間となったことから、「ロイヤルカナン・カップ」を開催せず「サクラ・アニュアル・ショー」のみの開催となりました。

(2) 「J K C サクラ・アニュアル・ショー2026」の開催

3 月 21 日(土)・22 日(日)には「J K C サクラ・アニュアル・ショー2026」を 2,047 頭の出陳をいただき、ポール・ロウレス氏をベストインショージャッジとして国外から 6 名の審査員を招請し、さらに来賓として三笠宮寛仁親王信子妃殿下をお迎えして、開催いたしました。

(3) アジアジャーマンシェパードドッグショーの開催

「2025 アジアジャーマンシェパードドッグショー」を 10 月 26 日(日)・静岡県富士市富士川緑地公園にて、マレーシアよりタン・オー・ホック審査員を招請して 61 頭の出陳をいただき開催いたしました。

(4) 展覧会規程改正内容、及びロゼット作成内容の見直し

FCI 展、及びクラブ連合会展の開催中止に関して、手続きを明確化しました。

同日同会場における複数展覧会の開催にあたって、国外審査員による同一日の複数審査の場合を除き、主催者の判断によりそれぞれの開始時間を決定することとしました。

FCI 展のブリード審査では、ベビーマッチショー、及びパピーマッチショー出陳犬に対しても、チャンピオンシップショー出陳犬同様に、担当審査員が評価を行い、評価カードを提示することとしました。

展覧会賞品のデザイン、及び価格の見直しを行いました。

(5) ロイヤルカナンアワードの実施推進

「ロイヤルカナンアワード」として、通算 31 回目となったアワード表彰については、144 犬種・260 頭(牡 126 犬種・129 頭／牝 130 犬種・131 頭)となりました。次の表は、過去 5 開催分の犬種と受賞頭数の推移を表したものとなります。

アワード受賞犬種・受賞頭数一覧

	牡		牝		合 計	
	犬 種 数	頭 数	犬 種 数	頭 数	犬 種 数	頭 数
2021 年	98 犬種	99 頭	91 犬種	93 頭	102 犬種	192 頭
2022 年	111 犬種	111 頭	104 犬種	104 頭	122 犬種	215 頭
2023 年	122 犬種	123 頭	116 犬種	118 頭	132 犬種	241 頭
2024 年	120 犬種	120 頭	115 犬種	115 頭	133 犬種	235 頭
2025 年	144 犬種	260 頭	126 犬種	129 頭	130 犬種	131 頭

※2020 年は、新型コロナウイルス感染症拡大により展覧会開催数が大幅に減少したため、2021 年分と合算し、表彰することとした。

(6) スチュワードの資格者の養成

2025 年度は昨年度と異なり、「ロイヤルカナン・カップ」を開催せず、「J K C サクラ・アニュアル・ショー」のみの開催となることからスチュワードの必要人数も減ることから、全国の 10 ブロックのブロックスチュワード委員会に対して資格者の派遣を要請し、職務を行っていただきました。

(7) スチュワードの資格者管理

スチュワードの資格者数について、チーフスチュワードへの昇格者が 5 名、スチュワードへの新規登録者が 14 名いました。2025 年夏に行った資格更新では、更新対象者 90 名(チーフスチュワード資格者 56 名、スチュワード資格者 34 名)のうち、72 名(チーフスチュワード資格者 48 名、スチュワード資格者 24 名)が更新手続きを行いました。2026 年 3 月末現在、チーフスチュワード 144 名、スチュワード資格者 76 名、合計 220 名となりました。次の表は各ブロック別・資格別スチュワード登録者数の一覧です。

ブロック別・資格別スチュワード登録者数 (単位：人)

ブロック	チーフスチュワード	スチュワード	合 計
北 海 道	7	3	10
東 北	14	0	14
北 関 東	9	6	15
千 葉	8	3	11
埼 玉	7	7	14
東 京	10	8	18
神 奈 川	13	8	21
北陸甲信越	13	2	15
中 部	13	6	19
近 畿	17	6	23
大 阪	7	10	17
中 国	8	2	10
四 国	6	9	15
九 州	12	6	18
合 計	144 (146)	76 (79)	220 (225)

※()は前年度数

展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移

次の表は過去５年間の展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移であります。

展 覧 会 名 称		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
J K C サクラ・アニュアル・ショー(本部展) (旧：F C I ジャパンインターナショナルドッグショー)	開 催 数	1回	1回	1回	2回	1回
	出陳総頭数	1,156頭	1,424頭	1,746頭	3,898頭	2,047頭
特別展 (ロイヤルカナン・カップ(旧：単犬種合同特別本部展) ／単犬種合同特別展)	開 催 数	1回	2回	2回	3回	1回
	出陳総頭数	790頭	1,441頭	1,556頭	2,931頭	640頭
アジアジャーマンシェパード ドッグショー	開 催 数	－	1回	1回	1回	1回
	出陳総頭数		59頭	64頭	60頭	61頭
F C I インターナショナル ドッグショー	開 催 数	12回	14回	14回	13回	15回
	出陳総頭数	9,287頭	9,940頭	10,706頭	9,611頭	11,742頭
	平 均 頭 数	774頭	710頭	765頭	793頭	783頭
クラブ連合会展	開 催 数	29回	27回	26回	30回	27回
	出陳総頭数	11,261頭	10,342頭	10,723頭	11,129頭	10,641頭
	平 均 頭 数	388頭	383頭	412頭	370頭	394頭
ジャーマンシェパードドッグクラブ ・トレーナーズクラブ連合会展	開 催 数	1回	1回	2回	2回	3回
	出陳総頭数	42頭	31頭	83頭	66頭	97頭
	平 均 頭 数	42頭	31頭	42頭	33頭	33頭
犬種部会展	開 催 数	6回	8回	9回	7回	7回
	出陳総頭数	592頭	564頭	748頭	553頭	597頭
	平 均 頭 数	99頭	71頭	83頭	77頭	85頭
全犬種クラブ展	開 催 数	89回	90回	98回	108回	92回
	出陳総頭数	26,196頭	23,134頭	24,718頭	23,727頭	22,978頭
	平 均 頭 数	294頭	257頭	252頭	220頭	250頭
犬種群クラブ展	開 催 数	25回	24回	29回	15回	24回
	出陳総頭数	3,035頭	2,090頭	2,663頭	1,182頭	2,164頭
	平 均 頭 数	121頭	87頭	92頭	79頭	90頭
単犬種クラブ展	開 催 数	8回	20回	11回	11回	14回
	出陳総頭数	479頭	946頭	583頭	609頭	873頭
	平 均 頭 数	60頭	47頭	53頭	55頭	62頭
合 計	開 催 数	172回	188回	193回	192回	185回
	出陳総頭数	52,838頭	49,971頭	53,590頭	53,766頭	51,840頭

4. 技術部門・競技会に関する事項

(1) 審査員、訓練士、トリマー、ハンドラー、アニマル衛生士資格者の管理

資格更新者の更新率の向上を図り、また各公認資格及び競技会審査員資格の新規・昇格試験を次の通り実施しました。

①資格取得試験

審査員／単犬種 2025年9月3日(水)：東京都で実施。

(受験者18名・受験犬種数78犬種・合格犬種数56犬種)

2026年2月25日(水)：大阪府で実施。

(受験者16名・受験犬種数67犬種・合格犬種数47犬種)

／犬種群 2025年9月3日(水)：東京都で実施。

(筆記試験)(受験者20名・受験犬種群数30犬種群・合格犬種群数19犬種群)

2026年2月25日(水)：大阪府で実施。

(筆記試験)(受験者17名・受験犬種群数28犬種群・合格犬種群数22犬種群)

(実技試験)クラブ展・クラブ連合会展会場で実施。

(受験者22名・受験犬種群数29犬種群・合格犬種群数29犬種群)

／全犬種 2025年9月3日(水)：東京都で実施。

(受験者6名・合格者数3名)

訓練士 7ブロック／6養成機関で実施。

(ブロック：40名合格、養成機関：147名合格)

トリマー 14ブロック／8指定機関・9研修機関・19協力機関で実施。(ブロック：139名合格、指定機関：757名合格、研修機関：417名合格、協力機関：485名合格)

ハンドラー 13ブロック／7指定機関・8研修機関で実施。(ブロック：127名合格、指定機関：365名合格、研修機関：262名合格)

アニマル衛生士 4養成機関で実施(受験者33名・合格者18名)

トリマー教士 2025年11月22日(土)：埼玉県で実施。(受験者9名・合格者0名)

ハンドラー教士 2025年11月6日(木)：埼玉県で実施。(受験者2名・合格者0名)

②資格更新件数：10,268件(対象件数：11,787件) 更新率：87.1%

(審査員：161件、訓練士：1,285件、トリマー：6,136件、ハンドラー：2,542件、アニマル衛生士：144件)

③②による資格更新件数10,268件のうち、3,079件が口座振替による更新。

(審査員：30件、訓練士：422件、トリマー：1,776件、ハンドラー：803件、アニマル衛生士：48件)

(2) 審査員・訓練士・トリマー・ハンドラー資格者の教育研修の強化

①審査員義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、13会場において延べ310名の受講により実施しました。

②訓練士義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、14会場において延べ1,118名の受講により実施しました。

③トリマー義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、14会場において延べ3,004名の受講により実施しました。

④ハンドラー義務研修会を、「犬の健康管理に役立つ知識～デンタルケア、胃腸のケア～」と各ブロックで設定した2テーマで実施。4ブロックは、各ブロックで設定したテーマのみで実施し、14会場において延べ764名の受講により実施しました。

⑤自主研修会の開催指導を行い、次の通り14会場で自主研修会が実施されました。

クラブ・2開催／審査員協議会・1開催／部会・1開催／ブロックトリマー委員会・3開催／ブロックハンドラー委員会・6開催／養成機関・1開催

(3) 各種審査員研修会及び試験の実施

- ①審査実務のための特別研修会を、「審査の手法」をテーマに、東京都において8名、大阪府において2名の受講により実施しました。
- ②新規訓練競技会審査員研修会を、「訓練競技会審査の原則と技術」をテーマに、埼玉県において、1名の受講により実施しました。

(4) トリマー養成機関の教育向上の指導強化

- ①各養成機関に教育体制及びカリキュラムの指導を実施しました。
- ②協力機関に資格取得試験に対する指導を実施しました。

(5) 訓練競技会の開催

第108回2025春季訓練競技大会を、2025年4月26日(土)・27日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数613頭で、また第109回2025秋季訓練競技大会を、2025年11月1日(土)・2日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数627頭で開催しました。

F C I 東日本インターナショナルトライアルを、2026年2月15日(日)神奈川ブロック訓練士協議会の担当により378頭の出陳頭数で開催しました。

F C I 西日本インターナショナルトライアルを、2025年12月14日(日)近畿ブロック訓練士協議会の担当により246頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロック訓練競技会を13回、S T連合会訓練競技会を3回、クラブ訓練競技会を14回開催しました。

訓練技術の向上を図るためチャンピオン制度を推進し、トレーニングチャンピオン120頭、グランドトレーニングチャンピオン62頭、オビディエンスチャンピオン16頭、グランドオビディエンスチャンピオン1頭の登録がありました。

オビディエンス試験・競技の参加人員底辺拡大のため、全国の訓練競技会でクラス採用の推進を図り、東西日本ブロック訓練士協議会主催で2回、ブロック訓練士協議会主催で8回、S T連合会主催で3回、クラブ主催で3回採用しました。

訓練競技会に併催して開催しているフライボール競技会については、第108回2025春季訓練競技大会に併催した第40回2025フライボール競技大会を、出陳頭数アトラクション個人競技43頭・アトラクションダブルス競技2ペア・個人競技22頭・チーム競技8チーム・ダブルス競技9ペアで、また、第109回2025秋季訓練競技大会に併催した第41回2025フライボール競技大会を、出陳頭数アトラクション個人競技42頭・アトラクションダブルス競技4ペア・個人競技23頭・チーム競技5チーム・ダブルス競技4ペアで開催しました。

この他、東日本・西日本ブロックフライボール競技大会を2回、ブロックフライボール競技会を9回、S T連合会フライボール競技会を3回開催しました。

競技会参加層の拡大を図るため、チャンピオン制度を推進し、フライボールチャンピオン6頭の登録がありました。

(6) I G P 競技会の開催

第30回2025 F C I - I G P 競技大会を、2025年6月21日(土)・22日(日)長野県・霧ヶ峰において出陳頭数49頭で開催しました。

第30回2025 F C I - I G P 競技大会の結果に基づき、F C I - I G P ワールドチャンピオンシップ2025(2025年9月15日(月)～21日(日)：スペイン・ビトリア)に5ペアを派遣しました。

成績は全ペア追及作業が70点未満のため、順位がつきませんでした。

(7) F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ派遣選考会の開催

F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2025派遣選考会の結果に基づき、F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2025(2025年7月2日(水)～6日(日)：ノルウェー・サンネヨフル)に1ペアを派遣しました。成績は個人最高51位でした。

また、F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2026派遣選考会を、2026年2月26日(木)・

27日（金）静岡県において出陳頭数7頭で開催しました。

訓練競技会・フライボール競技会種類別開催数の推移

（単位：回）

名 称	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
訓練競技大会(本部主催)	2	2	2	2	2
F C I インターナショナルトライアル	3	2	2	2	2
ブロック訓練競技会	10	9	12	9	13
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会訓練競技会	1	1	2	2	3
クラブ訓練競技会	10	13	11	15	14
フライボール競技大会(本部主催)	2	2	2	2	2
フライボール競技大会 (東日本・西日本ブロック訓練士協議会主催)	3	2	2	2	2
ブロックフライボール競技会	8	5	6	7	9
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会フライボール競技会	1	1	1	2	3
クラブフライボール競技会	0	1	0	0	0
F C I - I G P 競技大会(本部主催)	1	1	1	1	1
合 計	41	39	41	44	51

(8) アジリティー競技会の開催

第38回2025 F C I インターナショナルアジリティー競技大会を、2025年5月31日(土)・6月1日(日)に埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において、個人競技への出陳626頭・チーム競技への出陳49チーム147頭で開催しました。

J K C アジリティー・ジャパンカップ2025兼 F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2025 派遣選考会を、2025年6月14日(土)・15日(日)に福岡県・くつろぎの森グリーンピア八女フットサル場において出陳頭数78頭で開催しました。

J K C アジリティー・ジャパンカップ2025兼 F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2025 派遣選考会の結果に基づき、F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2025(2025年9月17日(水)～21日(日)：スウェーデン・カルマル)にスモール・ミディアム・インターミディエイト・ラージの各カテゴリー4ペア合計16ペアを派遣しました。成績は、個人総合のスモール及びインターミディエイトクラス35位、チーム総合の最高がミディアムクラス18位でした。また、チームラージクラスのアジリティー競技で第1位となりました。

F C I 東日本インターナショナルアジリティー競技大会を、2026年2月14日(土)に神奈川ブロック

訓練士協議会の担当により582頭の出陳頭数で開催しました。

F C I 西日本インターナショナルアジリティー競技大会を、2025年12月14日(日)に近畿ブロック訓練士協議会の担当により451頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロックアジリティー競技会を13回、S T 連合会アジリティー競技会を3回、クラブアジリティー競技会を35回開催しました。

競技会の充実により、アジリティー競技関連のチャンピオン登録は、アジリティーチャンピオン134頭、グランドアジリティーチャンピオン41頭、F C I インターナショナルアジリティーチャンピオン1頭の登録がありました。

アジリティー競技会種類別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
F C I アジリティー競技大会(本部主催)	0	1	1	1	1
アジリティー・ジャパンカップ／アジリティー J K C カップ／アジリティー大阪カップ	1	2	2	2	2
F C I 東・西日本アジリティー競技大会	3	2	2	2	2
ブロックアジリティー競技会	13	11	14	12	13
ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会アジリティー競技会	1	1	2	2	3
クラブアジリティー競技会	23	26	28	35	35
合 計	41	43	49	54	56

(9) ドッグダンス競技会の開催

第3回2025ドッグダンス競技大会を、2025年10月11日(土)・12日(日)に山梨県・ドッグリゾート W o o f において、出陳頭数76頭で開催しました。

F C I ドッグダンスワールドチャンピオンシップ2025(2025年7月31日(木)～8月3日(日)：フィンランド・ヴァンター)に5ペアを派遣しました。成績は個人最高が11位(フリースタイル)でした。

(10) トリミング競技会の開催

第45回トリミング競技大会予選を兼ねたブロック競技会、並びに養成機関競技会を14ブロック及び18養成機関でそれぞれ開催され、この結果を踏まえて、第45回トリミング競技大会を2026年3月21日(土)・22日(日)に東京都・東京ビッグサイトにおいて出場者291名で開催しました。

F C I グルーミングワールドチャンピオンシップ2025(2025年9月25日(木)：マレーシア・クアラルンプール)に5ペアを派遣しました。成績は個人1席(カテゴリー4.)・チームは2席でした。

トリミング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
トリミング競技大会(本部主催)	1	1	0	2	1
ブロックトリミング競技会	14	14	14	14	14
養成機関トリミング競技会	15	16	18	16	18
合 計	30	32	32	32	33

(11) ハンドリング競技会の開催

第42回ハンドリングコンペティション予選を兼ねた各ブロック競技会が14ブロックで開催され、この結果を踏まえて、第42回ハンドリングコンペティションを2026年3月21日（土）・22日（日）に東京都・東京ビッグサイトにおいて出場者53名で開催しました。

ハンドリング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ハンドリング競技大会(本部主催)	1	2	0	2	1
ブロックハンドリング競技会	13	14	14	14	14
合 計	14	16	14	16	15

(12) ジュニアハンドラーの育成及び教育研修の強化

第33回ジュニアハンドリングコンペティション予選を兼ねたブロックジュニアハンドリングコンペティションを14回開催しました。

サマーセミナーを、2025年7月27日(日)～29日(火)に山梨県において、25名の参加により実施しました。

イギリスのクラフトショーに併催された、ジュニアハンドラー世界大会2026(2026年3月6日(金):バーミンガム)に代表者を派遣しました。

ジュニアハンドラーガイドを各F C I インターナショナルドッグショー会場で配付し、登録者の増加推進を図り、ジュニアハンドラー活動初参加者へジュニアハンドラーTシャツを配布し、参加意識の向上を図りました。また、ジュニアハンドラー教育に関わる指導者に対して、国際畜犬連盟が定めるF C I ユースマニュアルを基とした審査手法及び指導方法の再確認をおこない、ジュニアハンドラーの育成強化を図りました。

ジュニアハンドラー登録者は、新規登録者及び登録更新者あわせて136名(前年度135名)となっています。

(13) オーナーハンドラー(初心者)のハンドリング技術の普及

一般クラブ会員向けにハンドリング技術の普及を図るため、クラブ連合会展会場において実施しているオーナーハンドラー講習会は8会場で実施され延べ197名の受講、また、オーナーハンドリングコンペティションは17会場で実施され延べ385名の参加がありました。

(14) 公認訓練所の充実

訓練実績を確認するため、訓練所所員の名簿提出及び登録を行い、実績不足の訓練所に対しては指導を行いました。

公認訓練所の認定にあたっては、設備・規模・衛生状態等についての实地調査を厳正に行い、新規訓練所として第1種訓練所に1訓練所を認定しました。また、第1種訓練所1訓練所を取消し、2025年度末公認訓練所数は、第1種訓練所が82訓練所、第2種訓練所が12訓練所となり、合計94訓練所となりました。

審査員資格登録者一覧表

2026年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	単犬種	犬種群	全犬種	小計	特別保持			保 持			合計
					単	群	全	単	群	全	
北海道	7 (0)	5 (1)	9 (4)	21	1	0	0	0	0	0	22
東 北	4 (0)	10 (2)	5 (2)	19	2	0	2	0	1	0	24
北関東	18 (0)	10 (0)	10 (6)	38	1	2	1	0	1	0	43
千 葉	19 (0)	11 (1)	5 (1)	35	5	0	0	0	0	0	40
埼 玉	12 (0)	12 (3)	9 (3)	33	2	0	0	1	0	0	36
東 京	19 (0)	14 (6)	21 (9)	54	2	2	4	2	0	0	64
神奈川	21 (0)	8 (2)	15 (3)	44	1	0	4	0	0	0	49
北 陸 甲信越	5 (0)	11 (3)	8 (2)	24	1	1	2	0	0	1	29
中 部	18 (0)	9 (0)	18 (8)	45	3	0	1	1	0	0	50
近 畿	4 (0)	14 (1)	6 (2)	24	4	1	3	0	0	1	33
大 阪	11 (0)	9 (4)	11 (7)	31	5	0	1	0	2	0	39
中 国 四 国	20 (0)	3 (0)	11 (8)	34	0	2	0	0	1	0	37
九 州	22 (0)	6 (0)	17 (6)	45	0	0	1	0	0	0	46
合 計	180 (0) <183>	122 (23) <122>	145 (61) <148>	447 <453>	54 <69>			11 <12>			512 <524>

注1 単→単犬種・群→犬種群・全→全犬種

2 < >は前年度数

3 ()は2025年度に審査を行った審査員実数84名、延べ人数345名

年度別審査員資格者推移表

(単位：人)

年 度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資格者数	580	560	545	524	512

訓練士資格登録者一覧表

2026年 3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	訓練準士補		訓練士補		訓練練士		訓練教士		訓練範士		師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持			正常	保持
北海道	0	0	0	3	41	13	8	1	4	0	0	70	53	17
東 北	4	6	7	5	50	23	14	1	2	1	5	118	82	36
北関東	2	0	19	64	71	12	10	4	4	0	4	190	110	80
千 葉	0	0	84	291	52	26	8	1	4	0	2	468	150	318
埼 玉	4	0	29	277	98	34	16	2	10	2	7	479	164	315
東 京	2	0	44	244	81	39	23	2	8	1	4	448	162	286
神奈川	1	0	20	92	77	25	18	3	16	3	6	261	138	123
北 陸 甲信越	0	0	3	20	50	31	13	1	3	1	4	126	73	53
中 部	1	1	24	82	82	26	21	4	12	0	5	258	145	113
近 畿	5	0	6	36	105	46	23	2	19	1	3	246	161	85
大 阪	1	0	8	52	58	41	13	3	8	1	0	185	88	97
中 国	2	1	1	11	40	34	10	2	5	2	7	115	65	50
四 国	1	0	0	23	28	6	6	3	7	1	1	76	43	33
九 州	4	0	23	51	82	16	21	2	16	1	2	218	148	70
計	27	8	268	1,251	915	372	204	31	118	14	50	3,258	1,582	1,676
合 計	35 <32>		1,519 <1,511>		1,287 <1,305>		235 <234>		132 <132>		50 <50>	3,258 <3,264>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は180名

年度別訓練士資格者推移表

(単位：人)

年 度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資格者数	3,216	3,262	3,231	3,264	3,258

トリマー資格登録者一覧表

2026年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持				正常	保持
北海道	32	97	25	395	25	83	8	0	665	90	575
東 北	109	288	98	155	29	19	3	0	701	239	462
北関東	142	693	83	386	52	45	9	1	1,411	287	1,124
千 葉	151	391	79	685	51	92	5	0	1,454	286	1,168
埼 玉	75	226	86	784	56	109	3	3	1,342	223	1,119
東 京	64	227	90	843	82	168	9	5	1,488	250	1,238
神奈川	49	145	68	325	51	60	4	1	703	173	530
北 陸 甲信越	106	262	77	158	34	22	3	0	662	220	442
中 部	47	178	69	375	32	67	4	1	773	153	620
近 畿	189	243	137	357	55	75	2	0	1,053	383	670
大 阪	40	164	85	474	77	91	5	2	938	209	729
中 国	367	516	93	201	59	43	5	1	1,285	525	760
四 国	124	258	45	143	33	35	4	0	642	206	436
九 州	276	538	128	601	82	150	13	3	1,791	502	1,289
計	1,771	4,226	1,163	5,877	718	1,059	77	17	14,908	3,746	11,162
トリマー 養成機関	933		577		80		5	1	1,596		
合 計	6,930 <6,779>		7,617 <7,700>		1,857 <1,872>		82 <84>	18 <20>	16,504 <16,455>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は1,533名

年度別トリマー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資格者数	15,827	16,042	16,222	16,455	16,504

ハンドラー資格登録者一覧表

2026年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		特別 A級	教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持					正常	保持
北海道	45	202	9	11	7	3	0	3	1	281	65	216
東 北	15	217	13	10	4	4	0	3	1	267	36	231
北関東	56	452	13	7	9	1	0	5	0	543	83	460
千 葉	47	521	15	15	14	2	0	5	1	620	82	538
埼 玉	101	493	11	12	4	6	0	7	0	634	123	511
東 京	64	602	7	14	10	4	1	2	1	705	85	620
神奈川	50	238	18	11	17	5	1	5	2	347	93	254
北 陸 甲信越	19	98	8	6	13	2	0	1	0	147	41	106
中 部	37	263	16	12	13	6	0	5	1	353	72	281
近 畿	112	272	11	9	7	3	0	4	0	418	134	284
大 阪	89	361	7	5	12	5	0	4	0	483	112	371
中 国	63	183	13	14	6	3	0	4	0	286	86	200
四 国	46	184	5	4	4	1	0	2	0	246	57	189
九 州	62	378	16	20	11	7	1	10	0	505	100	405
計	806	4,464	162	150	131	52	3	60	7	5,835	1,169	4,666
トリマー 養成機関	1,122		6		0		0	0	0	1,128		
合 計	6,392 <6,239>		318 <321>		183 <183>		3 <4>	60 <61>	7 <8>	6,963 <6,615>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は737名

年度別ハンドラー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資格者数	6,599	6,575	6,696	6,815	6,963

5. 愛犬の飼育環境整備に関する事項

(1) 動物愛護精神の普及と高揚

核家族化や高齢化が進み、犬を飼育することの重要性が高く評価されている現代社会において、犬の絵や写真、俳句を通じて犬への愛情や理解を深めていただくことを目的に実施している各種コンクール(犬の絵コンクール、愛犬とのふれあい写真コンテスト等)を、前年度に引き続き開催した他、「2025 動物感謝デー in JAPAN “The World Veterinary Day”」及び「動物愛護週間中央行事」(2025年11月15日(土))への協賛を行いました。

また、会報にて長寿犬(満15歳以上)の誌上表彰(319頭)を行いました。

(2) 災害救援活動の推進

災害対応基金制度による災害対応基金の総額は1,953,865円です。

令和6年能登半島地震の募金総額は2,119,742円となっており、会員お見舞送金分を差し引いた金額及び災害対応基金より、1,500,000円を日本赤十字社の令和6年能登半島地震義援金へ送金しました。

(3) 愛犬飼育管理士資格制度の推進

「動物の愛護及び管理に関する法律」の理念に基づき、地域において動物愛護思想の普及啓蒙、畜犬に係る公衆衛生の向上及び畜犬の適正な指導奨励に関する事業の地域における指導的役割を担う人材を育成するため、「JKC愛犬飼育管理士」資格取得のための講習会・試験を8カ所の会場で実施し、1,298名の登録がありました。また、この他、公認トリマー養成機関生徒535名の資格登録がありました。

愛犬飼育管理士講習会・試験の開催と登録者数の推移

年 度	開催数と開催ブロック名		登録者
2021年度	11開催	北海道・東北・大阪・北陸甲信越・四国・近畿・埼玉・中部・千葉・東京・九州	3,393名
2022年度	12開催	九州3回・大阪・東北・中国・近畿・北海道・中部・埼玉・東京・神奈川	3,594名
2023年度	6開催	大阪・埼玉・近畿・東京・中部・九州	1,614名
2024年度	8開催	大阪・九州2回・東京・中部・東北・埼玉・近畿	1,512名
2025年度	8開催	北海道・大阪・東京・埼玉・東北・近畿・中部・九州	1,298名
合 計	第1回(2007年)からの延べ開催数と登録者数 …… 176開催・28,262名		

(4) 各種コンクールの実施

「第49回夏休み犬の絵コンクール」、「第34回愛犬とのふれあい写真コンテスト」、「令和7年愛犬とのふれあいの俳句」へは、いずれも多くのお応募がありました。

また、各種コンクールの優秀作品を、会報及びホームページに掲載しました。なお、前年に引き続き「2025年犬の絵コンクール優秀作品集」、「2025第34回愛犬とのふれあい写真コンテスト」カラーパンフレットを刊行し、世界のケネルクラブ及び協力者、関係者に配付し、好評を得ました。

夏休み犬の絵コンクール／愛犬とのふれあい写真コンテスト
／「愛犬とのふれあいの俳句」俳壇応募数一覧

年 度	夏休み犬の絵コンクール							愛犬との ふれあい写真 コンテスト (点)	愛犬との ふれあいの 俳句 (句)
	応募数 (点)	団体数 (団体)	団体内訳						
			①	②	③	④	⑤		
2021年度	10,018	292	253	30	0	1	8	654	2,344
2022年度	11,410	311	258	38	0	6	9	515	1,310
2023年度	10,983	291	245	31	1	3	11	874	1,292
2024年度	10,968	271	219	31	2	7	12	725	1,125
2025年度	9,994	282	210	41	2	11	18	399	2,437

注：団体内訳の丸数字は順に①小学校 ②絵画教室 ③幼稚園 ④中学校 ⑤その他です。

(5) 社会福祉への貢献

全国の1連合会、7クラブ(延べ8回)が実施した動物愛護及び社会福祉活動に対し一定額の助成を実施しました。

6. 災害対策に関する事項

(1) 災害救助犬の育成強化

災害救助犬の全国的な配備を目指し、ブロック訓練士協議会主催により全国6ブロックで災害救助犬認定試験を実施し、新たに26頭を認定しました。この結果、2025年度末現在の認定犬頭数は、死亡等による認定返上を差し引き、190頭となり、その内10歳以上の犬等の特別災害救助犬の頭数は54頭となりました。指導手については206名となりました。

(2) 災害救助犬育成訓練所の拡充指導

公認災害救助犬育成訓練所22訓練所の他に、災害救助犬を所有する訓練所が7訓練所となりました。

(3) 災害救助犬の出動体制の整備

①防災週間等に全国35カ所で行われた防災訓練等に災害救助犬延べ83頭、指導手延べ102名が参加しました。

②現在、出動に関する協定締結自治体は27自治体(新規自治体は香川県、滋賀県、兵庫県、大阪府交野市)となっています。

③災害が発生した時に出動する災害救助犬出動部隊の創設準備を行いました。

(4) 災害救助犬育成募金の活用

①2025年度の災害救助犬育成募金の総額は1,411,309円となりました。

②2025年度の災害救助犬支援企業は、アニコム損害保険株式会社の1社(協賛金総額550,000円)となりました。

③2025年度の災害救助犬育成寄付金付き自動販売機の設置台数は114台となりました。(寄付金総額678,210円)

④2025年度の災害救助犬育成募金・協賛金総額は1,961,309円となり、災害救助犬の事業支出(総額14,758,691円)の一部として災害救助犬育成助成費、指導手傷害保険、東西訓練施設維持管理費等に活用しております。

次の表は災害対策費の項目別支出一覧です。

2025年度災害対策費支出一覧

(単位：円)

項 目	金 額
災害救助犬育成助成費(76頭)	1,368,000
防災訓練・イベント等(35カ所、延べ83頭・102名)	1,065,500
指導手傷害保険(239名)	537,560
東西訓練施設維持管理費	2,107,473
災害救助犬認定試験(6回)	4,346,465
災害救助犬競技大会	3,623,193
災害救助犬世界大会	1,710,500
合 計	14,758,691

(5) 災害救助犬訓練施設の整備

- ①東日本災害救助犬訓練施設の整備及び管理を行いました。
- ②西日本災害救助犬訓練施設(京丹波町)を売却しました。
- ③西日本彦根災害救助犬訓練施設練施設の整備及び管理を行いました。

(6) 災害救助犬指導手の連携強化

災害救助犬等、並びに指導手の技術向上及び指導手の連携強化を図るため、東日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ864頭、指導手延べ629名の合同搜索訓練を、また、西日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ324頭、指導手延べ260名による合同搜索訓練を、義務練習及び自主練習として実施しました。

(7) 特別災害救助犬の認定

年齢が10歳以上となった認定犬及び能力が低下した認定犬18頭を新たに特別災害救助犬として認定しました。

(8) F C I 災害救助犬委員会との連携強化及び技術交流

2025年6月15日(日)トルコ・イスタンブールにてF C I 災害救助犬委員会会議が開催され、災害救助犬に関する意見の交換と技術の交流を図りました。

(9) 災害救助犬競技大会の開催

- ①2025年6月12日(木)～15日(日)トルコ・イスタンブールで開催された2025 F C I 災害救助犬チームワールドチャンピオンシップにチームリーダー1名・指導手3名・災害救助犬3頭を派遣しました。成績は瓦礫搜索部門3チーム中1位(瓦礫搜索作業3チーム中1位、服従熟練作業3チーム中2位)でした。
- ②第27回2025災害救助犬競技大会を2025年10月7日(火)・8日(水)の2日間、東日本災害救助犬訓練施設・(独)家畜改良センター内野球グラウンドにおいて、出陳頭数32頭で開催しました。

7. 学術部門に関する事項

(1) 各種研修会・試験の充実

各種資格の義務研修会等のテキストを作成しました。各種資格試験(審査員・トリマー・ハンドラー)の試験問題を作成しました。

(2) 学術資料の拡充

犬種標準の改正(アブルッツォ・アンド・マレンマ・シェパード・ドッグ(旧名称:マレンマ・シーブドッグ)、及び、新登録犬種 計1犬種カンガル・シェパード・ドッグ)の犬種標準の作成を行いました。各犬種に関する資料の収集及び整備を行いました。また、ジュニアハンドラー指導向け資料の周知を

行いました。

(3) 審査員技術の向上と育成

審査員の技術向上のため、審査実務のための研修会を2025年12月17日(水)、2026年2月24日(火)に実施した他、ブロック審査員協議会主催による義務・自主研修会用の資料の作成をしました。

審査員育成のため、2025年9月3日(水)に東京都、及び2026年2月25日(水)に大阪府で審査員試験を実施し、2025年9月3日(水)に東京都で全犬種審査員試験を実施しました。

また、各地の展覧会にて犬種群審査員の実技試験を実施しています。

(4) 各種教本の修正及び販売

犬種標準の改正、並びに新登録犬種の増加に伴い、全犬種標準書の改正を行いました。

8. 国際的連携に関する事項

(1) 国際畜犬連盟(F C I)との連携強化

F C I加盟国として、2025年8月にフィンランドで開催されたF C I総会に出席しました。また、2025年9月にスペインと2026年3月にポーランドで開催されたF C Iユーティリティードッグ委員会、2025年9月にスウェーデンと2025年12月にオンライン、2026年2月にフィンランドで開催されたF C Iアジリティー委員会、2025年6月にトルコで開催されたF C I災害救助犬委員会、2025年7月と2025年11月、2026年2月に開催されたF C Iグルーミング委員会内技術委員会のオンライン会議、2025年7月にノルウェーで開催されたF C Iオビディエンス委員会、2025年6月と2025年9月に開催されたF C Iドッグダンス委員会のオンライン会議にそれぞれ出席しました。

なお、2025年6月に開催されたF C Iオンライン総会、2026年1月にスロベニアで開催されたF C I災害救助犬委員会、2025年10月と2025年12月に開催されたF C Iグルーミング委員会内技術委員会のオンライン会議、2025年4月と2025年11月、2026年3月に開催されたF C Iオビディエンス委員会のオンライン会議は欠席しました。

また、2025年9月にマレーシアで開催されたF C Iアジア・アフリカ・オセアニア・セクション総会にも出席しました。

2025年度末のF C I加盟国数は89カ国(うち正会員78カ国、準会員11カ国)、F C I契約パートナー国数は12カ国となっています。

(2) アジア・グルーミング・フェデレーション(A G F)の連携強化

A G F各加盟国におけるグルーミング競技会活動の強化を図るため、加盟2カ国で開催されたグルーミング競技会・試験への本会審査員延べ15名の国外審査を許可しました。

2025年度末のA G F加盟国数は4カ国となっています。

(3) 世界秋田クラブ畜犬連盟(WU A C)の連携強化

WU A C会長国として、2025年12月に四国に関するWU A Cオンライン・セミナーを開催し、WU A C加盟団体から多くの関係者が参加しました。

2025年度末のWU A C加盟国数は12カ国となっています。

(4) 国外ケネルクラブとの技術交流の強化促進

諸外国との技術交流の強化を図るため、国外ケネルクラブとの連携を密にするとともに、国内展覧会・各種競技会への国外審査員の招請及び国外展覧会・各種競技会への本会審査員の派遣を行いました。その内容は、106の国内展覧会・各種競技会に世界39カ国から延べ284名の審査員が招請されました。

また、国外については、世界27カ国へ延べ100名の国外審査を許可しました。

なお、A G F加盟国への派遣については(2)に記載しました。

(5) 日本原産犬種の国際的振興

日本原産犬種のスタンダード及び特徴を充分理解してもらうため、日本原産犬種の各種資料の収集に努めました。

(6) 国際的な情報収集と文献交換

世界各国のケネルクラブから会報誌が定期的に送付されてきており、本会からは会報「J K C ガゼット」、「犬の絵コンクール優秀作品集」等を送付しています。その他、犬界の雑誌の収集等、世界の

状況把握に努めました。

9. 広報部門に関する事項

(1) 会報「JKCガゼット」の内容充実

犬のお手入れのための「トリマーに聞く ごっそり抜け毛の対処法」や愛犬の健康管理「足のトラブルケア」「オーラルケア」「食欲のある犬&食欲のない犬」「健康長寿に導く犬の理学療法」、「JKC愛犬検定2025」、災害対策のための「命を守る防災&避難の新常識」、犬の性格や行動について「愛犬の個性はどう作られる？」や、「人はなぜ犬を描きたくなるのか?」、ドッグショーの楽しみ方を紹介した「ドッグショーの新しい魅力」などの最新情報を特集で掲載しました。

また、本部主催の展覧会や災害救助犬競技大会、トリミング競技大会、訓練競技大会等の報告記事や各種展覧会・競技会の日程、JKC公示、会員から送られた愛犬の写真とエピソードなど、会員に必要な情報の掲載をいたしました。

(2) ホームページの内容充実

ホームページに掲載する情報や、各種展覧会・競技会の日程、最新イベントに関する情報等の随時更新をしていきました。そして、公認資格者向けのトリミング動画配信及び新規動画作成、展覧会システムの改正に関する動画配信を継続しました。

さらに、JKCマスコットキャラクター「ジャック」を利用した「ジャックブログ」をホームページ上で随時更新し、会員のみなならず一般愛犬家も楽しめるような、ホームページ作りに努めました。

その他、会員特典として、通販サイトと連動して「クーポン」を取得できるようにしました。

(3) 展覧会・競技会事業等のPR活動

本部が主催する展覧会や訓練競技大会、アジリティー競技大会、フライボール競技大会、トリミング競技大会等の見どころを会報で紹介しPRに努めました。

さらに、JKCマスコットキャラクター「ジャック」のティッシュやハンドタオル等のグッズを、本部主催の展覧会会場等で配布・販売した他、キャラクターパネルによる写真撮影などによるPRに努めました。

10. 図書印刷物の刊行に関する事項

(1) 定款規程集の発行

定款規程細則全書2025年度版を5月に刊行しました。

(2) 犬の絵コンクール優秀作品集の発行

2025年犬の絵コンクール優秀作品集を2025年12月に刊行しました。

11. 電算システムの開発に関する事項

(1) Web申請プロジェクトの推進

Web申請プロジェクトを推進するために、ベンダーの選定及び要件定義工程・基本設計工程の仕様確認の作業等を行いました。

(2) パソコンの入れ替えを実施

Windows10のサポート終了に伴い、Windows11のパソコンへの入れ替えを実施いたしました。

(3) 各種プログラムの修正対応

規定変更及び各部署の要望に伴い、プログラムの修正を行いました。

(4) 各種データ抽出依頼対応

各部署より依頼のあった統計や現状調査等の各種データ抽出依頼に対応いたしました。

12. 登録申請受付システムの開発に関する事項

(1) インターネットを利用した申請受付システムの構築

本会ホームページより、オンライン申請による愛犬飼育管理士講習会の受講・受験申込システムの運用を維持し、必要に応じシステムの修正を加えました。

また、ウェブ登録システムの新規開発に向けて準備を進めました。